

# 教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

# JSiSE

発行日 2006年1月31日  
発行所 教育システム情報学会  
発行者 伊藤 紘二  
〒533-8533  
大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内  
TEL06-6990-3638 FAX06-6990-3638  
http://www.jsise.org/  
E-mail: secretariat@jsise.org

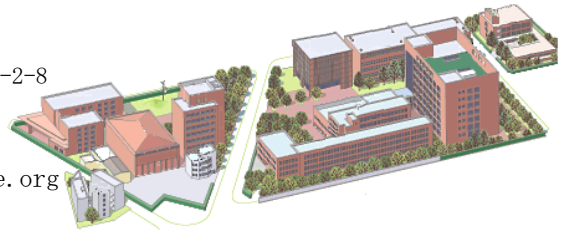
## ニュース・レター No.139

### 第31回 JSiSE全国大会のご案内

○○○ テーマ ○○○

#### 知の創成と人材育成のための情報技術基盤

- 日 程 : 2006年8月23日(水)・24日(木)・25日(金)
- 開催場所 : 大阪経済大学  
〒533-8533  
大阪市東淀川区大隅 2-2-8
- お問い合わせ : JSiSE事務局  
E-mail : secretariat@jsise.org  
T E L : 06-6990-3638



詳細につきましては、随時ご案内させていただきます。



#### もくじ

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第31回全国大会のご案内             | 1  |
| 国際会議のご案内                 | 2  |
| 事務局からのお知らせ               | 3  |
| 英文誌 論文募集について             | 4  |
| 2006年度研究会開催予定            | 5  |
| 2005年度第6回研究会発表プログラム      | 6  |
| 2006年度第1回研究会発表募集について     | 9  |
| 2005年度第4回研究会の報告          | 10 |
| 先進eラーニングフォーラム '2006 について | 11 |

## 国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れているCFP情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

## 新規情報 7件

KES2006: 10th International Conference on Knowledge-Based & Intelligent Information & Engineering Systems

開催日程 : 2006年10月9日-11日

論文応募締切 : 2006年2月1日

開催地 : Bournemouth, United Kingdom Contact

U R L : <http://kes2006.kesinternational.org/>

E-mail : [kes2006@kesinternational.org](mailto:kes2006@kesinternational.org)

Invited Session "Learning Base in Knowledge Sharing" in KES2006

論文応募締切 : 2006年3月20日

U R L : <http://www.watanabe.ss.is.nagoya-u.ac.jp/kes2006/IS33.pdf>

Invited Session "Learning Space and Support in the Information Age" in KES2006

論文応募締切 : 2006年3月20日

U R L : <http://www.watanabe.ss.is.nagoya-u.ac.jp/kes2006/IS34.pdf>

EISTA '06: The 4th International Conference on Education and Information Systems, Technologies and Applications

開催日程 : 2006年7月20日-23日

論文応募締切 : 2006年2月3日

開催地 : Orlando, Florida, USA

U R L : <http://www.conf-info.org/eista06/website/>

ICALT 2006: The 6th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies

開催日程 : 2006年7月5日-7日

主催 : IEEE

論文応募締切 : 2006年2月4日

開催地 : Kerkrade, The Netherlands

U R L : <http://www.ask.iti.gr/icalt/2006/>

PRICAI 2006: Ninth Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence

開催日程 : 2006年8月7日-11日 (KSEMと共催)

論文応募締切 : 2006年2月22日

開催地 : Guilin, China

U R L : <http://www.csse.monash.edu.au/pricai06/>

E-mail : [pricai06@cs.ust.hk](mailto:pricai06@cs.ust.hk)

KSEM 2006: First International Conference on Knowledge Science, Engineering and Management

開催日程 : 2006年8月5日-8日 (PRICAIと共催)

論文応募締切 : 2006年3月10日

開催地 : Guilin, China

U R L : <http://www.cs.ust.hk/ksem06/>

E-mail : [ksem06@cs.ust.hk](mailto:ksem06@cs.ust.hk)

IE06: 2nd IEE International Conference on Intelligent Environments

開催日程 : 2006年7月5日-6日  
主 催 : The Institution of Electrical Engineers (IEE)  
論文応募締切: 2006年3月15日  
開催地 : Athens, Greece  
U R L : <http://conferences.iee.org/ie06/>  
E-mail : [ie2006@cti.gr](mailto:ie2006@cti.gr)

RO-MAN 2006: The 15th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication

開催日程 : 2006年9月6日-8日  
主 催 : IEEE, 日本ロボット学会  
論文応募締切: 2006年3月15日  
開催地 : Hatfield, United Kingdom  
U R L : <http://ro-man2006.feis.herts.ac.uk/>

再掲情報 0 件

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)

E-mail : [matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp](mailto:matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp)

下記の期間、事務局を  
閉鎖させていただきます。

会員の皆様には大変  
ご迷惑をおかけいたし  
ますが、何卒よろしくお  
願い致します。

<期間>

平成18年2月17日(金)

~2月23日(木)

2月24日(金)より  
平常どおりです。

\*\*\*\*\*  
**事務局から  
の  
お知らせ**  
\*\*\*\*\*

# 教育システム情報学会英文誌 論文募集

## (Vol.5, No.1, 2006 年 12 月発行予定)

英文誌編集委員会

教育システム情報学会では、2002 年度から年 1 回定期的に英文誌を発行しています。これまでに発行してきました英文誌は、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容となりました。このたび、Vol.5 に掲載する論文を募集いたします。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思っております。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

- 論文種別： 原著論文(Original Paper), 実践論文(Practical Paper), ショートノート(Short Note), 実践速報(Report on Practice)
- 投稿締切： 2006 年 5 月 20 日  
(投稿は随時受け付けていますが、この期日までにご投稿いただいたものに関しては、Vol.5, No.1 への掲載対象となります)
- 投稿要件：
  - ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
  - ・寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用されます。寄稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、投稿料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：英文論文誌もしくは下記の URL を参照してください  
([http://www.jsise.org/e\\_journal/CFP-IJ-JSiSE.pdf](http://www.jsise.org/e_journal/CFP-IJ-JSiSE.pdf))
- 投稿方法：

オリジナル原稿を PDF 形式にしたものを電子メールに添付して JSiSE 英文誌編集事務局 (jsise-e@jsise.org) へ送付してください。その他のファイル形式や提出方法を希望される場合は、お問い合わせください。
- 問い合わせ先 (メールにてお問い合わせください)  
JSiSE 英文誌編集事務局  
E-mail : jsise-e@jsise.org

## ～～ 2006 年度 研究会開催予定 ～～

2006 年度は下記のような予定で研究会を開催いたします。多くの方々のご発表・ご参加をお待ちしております。

なお、申込期限や原稿提出期限等の詳細につきましては、ニューズレター等でご案内申し上げます。

|           |  |
|-----------|--|
| 6月9日(金)   | 第1回 JSiSE 研究会 (担当: 仲林・松居)<br><br>会 場: 早稲田大学 国際会議場 (東京, 西早稲田)<br>テーマ: e-learning 環境のデザインと評価 (企業内教育を含む) / 一般         |
| 7月1日(土)   | 第2回 JSiSE 研究会 (担当: 渡辺・野崎・不破)<br><br>会 場: 信州大学 工学部 (長野市)<br>テーマ: 探求学習とハイパーメディア (学習コンテンツのメタデータ利用、コンテンツレポジトリを含む) / 一般 |
| 9月15日(金)  | 第3回 JSiSE 研究会 (担当: 小西・平嶋・伊藤)<br>会 場: 東京理科大学 (東京, 神楽坂)<br>テーマ: 学習の身性とマルチモーダルインタフェース (音声言語インタフェース含む)                 |
| 11月25日(土) | 第4回 JSiSE 研究会 (担当: 黒瀬・米澤・磯本)<br><br>会 場: 岐阜聖徳学院大学 (岐阜市)<br>テーマ: 高等教育と生涯学習における ICT 活用 / 一般                          |
| 1月27日(土)  | 第5回 JSiSE 研究会 (担当: 柏原・佐々木)<br><br>会 場: 拓殖大学 工学部 (東京, 八王子市)<br>テーマ: モバイル・ユビキタス学習環境 / 一般                             |
| 3月17日(土)  | 第6回 JSiSE 研究会 (担当: 西野・松永)<br><br>会 場: 千里金蘭大学 (吹田市)<br>テーマ: 大学における情報教育の新たな展開<br>ー教科「情報」との接続性ー / 一般                  |

# 2005 年度第 6 回研究会発表プログラム

## テーマ 「情報教育の実績と新しい展開」 及び 「情報教育全般」

担当：研究会委員会  
西野和則／松永公廣

開催日：2006年3月17日（金） 9:15～17:00

開催場所：沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905 番地

電話：0980-55-4003（代）

### プログラム

9:00～9:15 受付

9:15～9:20 挨拶

#### 【第1セッション（9:20～12:20）】

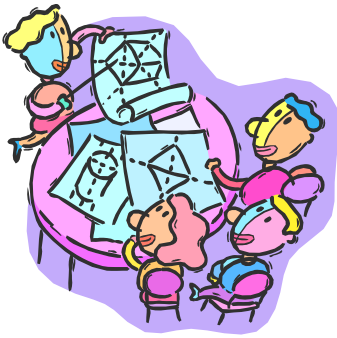
- 9:20～9:40 1. 情報の科学的理解を目標とした教材開発  
○金田忠裕（大阪府立高専），高橋参吉（千里金蘭大学），西野和典（九州工業大学），  
松永公廣（摂南大学），下倉雅行（大阪大学）
- 9:40～10:00 2. 情報教育の目標に基づく算数の指導について  
○高橋参吉（千里金蘭大学），古谷規行，佐藤昭夫，  
笹原收豊（大阪府寝屋川市立三井小学校）
- 10:00～10:20 3. PBL(Problem Based Learning)によるプロジェクト参加型情報教育  
-官学連携による災害初期対応システム開発を通じて-  
○井上明（甲南大学情報教育研究センター），  
佐野嘉紀，奥田晋也，白井由希子（同志社大学大学院工学研究科），  
村西あい，竹内一浩，中村喜輝（同志社大学工学部），  
永井智子（同志社大学大学院工学研究科），  
金田重郎（同志社大学大学院工学研究科・同志社大学院総合政策科学研究科）
- 10:20～10:40 4. 情報モラル教育から考える情報教育カリキュラムの提案  
○村田育也（北海道教育大学教育学部旭川校）
- 10:40～11:00 5. 学習者特性を考慮した情報科教育法  
○森石峰一（大阪電気通信大学）
- 11:00～11:20 6. 知的障害者 職業訓練施設における情報教育の実践について  
○宇治典貞（園田学園女子大学），原克彦（目白大学）
- 11:20～11:40 7. 大学における一般情報教育で育成すべき能力と科目設計について  
— 育成する能力・視座・視点集約 Yes/No マップ（仮称）での分析 —  
○横山宏（大阪電気通信大学），下倉雅行（大阪大学），  
中村民明（tami 情報教育研究所），飯田慈子（tami 情報教育研究所），  
正木幸子（大阪商業大学），野口紳一郎（龍谷大学），岩崎重剛（やる気教育研究所），  
石桁正士（大阪電気通信大学），松永公廣（摂南大学）
- 11:40～12:00 8. 中学校における情報倫理に関する教育実践学的研究  
～個人情報に関する授業の実践～  
○阿濱茂樹（金沢大学教育学部），鬼藤明仁（兵庫教育大学大学院）
- 12:00～12:20 9. メディアに対する教師の意識に関する基礎的研究  
—メディアに対する尺度構成と実態調査—  
○田井志保里（金沢大学大学院教育学研究科），阿濱茂樹（金沢大学教育学部）

**【第2セッション (9:20~12:20)】**

- 9:20 ~ 9:40 10. 高等学校普通教科「情報」のリメディアル教育導入のための診断的評価テストの作成  
○森啓輔, 山口真之介, 大西淑雅, 西野和典 (九州工業大学)
- 9:40 ~10:00 11. 動画制御による SMILE for ME の機能拡張と授業実践  
○白石剛一, 山口真之介, 大西淑雅 (九州工業大学),  
大倉孝昭 (大谷女子大学), 西野和典 (九州工業大学)
- 10:00~10:20 12. 授業適応型アンケートシステムの基本設計  
○坂本健成 (九州工業大学大学院情報工学研究科),  
西野和典, 篠原武 (九州工業大学情報工学部)
- 10:20~10:40 13. 学生による協調的な問題作成が可能なオンラインテストシステムの導入効果  
○高木正則, 田中充, 勅使河原可海 (創価大学大学院工学研究科)
- 10:40~11:00 14. 学習意欲を向上させるための学習支援 —解答提示支援—  
○藤井美知子 (宇部フロンティア大学短期大学部), 二木映子 (宇部工業高等専門学校)  
中島信恵 (宇部フロンティア大学短期大学部), 佐野蘭美 (摂南大学),  
松永公廣 (摂南大学)
- 11:00~11:20 15. 「子ども発達相談ブログ」の提案—保育者のスキル向上を目指して—  
○白井由希子 (同志社大学大学院工学研究科), 井上明 (甲南大学情報教育研究センター),  
新谷公朗 (常磐会短期大学幼児教育科), 糠野亜紀 (常磐会短期大学幼児教育科),  
芳賀博英 (同志社大学大学院工学研究科), 金田重郎 (同志社大学大学院工学研究科)
- 11:20~11:40 16. 大学の文系学部における統計パッケージ SPSS を用いた授業実践  
○西本実苗 (関西学院大学大学院文学研究科)
- 11:40~12:00 17. Excel VBA を利用した論理的思考力を育成するためのプログラミング学習環境  
○木原寛 (富山大学総合情報基盤センター)
- 12:20~13:15 昼休み (第1セッションは12:20, 第2セッションは12:00に終了)

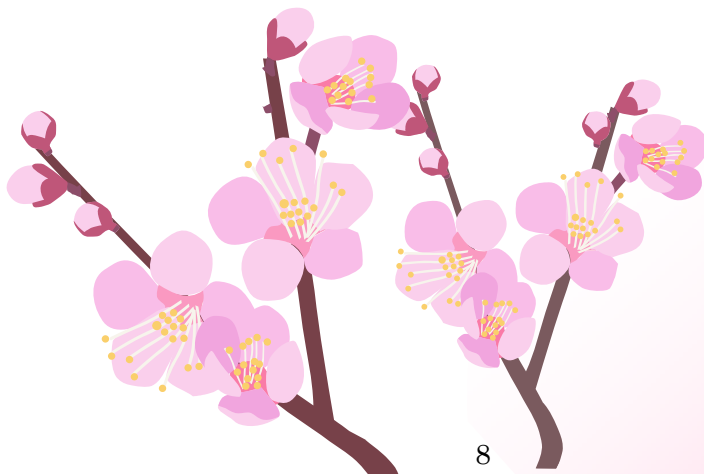
**【第3セッション (13:15~16:55)】**

- 13:15~13:35 18. 学生と地域商店街の連携によるインターネットモール構築  
○神谷勇毅, 近松亮, 伊藤敏, 津森伸一, 磯本征雄 (岐阜聖徳学園大学)
- 13:35~13:55 19. e-ラーニングにおける問題自動生成のいくつかの方法  
○宮地功, 加藤政則, 佐藤正志, 西田直文, 原隆行, 治卓也,  
宮内康祐 (岡山理科大学), 吉田幸二 (湘南工科大学)
- 13:55~14:15 20. 課題収集と評価に特化した授業支援システム WebTA の開発  
○下倉雅行, 田中規久雄 (大阪大学大学院法学研究科)
- 14:15~14:35 21. 容易に運用可能なオンラインテストシステム  
○緒形亮 國宗永佳 新村正明 右代美香 不破泰 (信州大学)
- 14:35~14:55 22. HTTP-FUSE-KNOPPIX を基盤としたサーバ学習環境のシステム開発  
○佐々木喜一郎, 安立成洋, 田村孝, 安田孝美, 横井茂樹 (名古屋大学情報科学研究科)
- 14:55~15:15 23. 協調学習における自主的発言促進システムの設計と運用  
○高橋正憲, 永田奈央美, 魚田勝臣 (専修大学大学院経営学研究科)
- 15:15~15:35 24. CMC 環境において情意的状態の Awareness を提供するシステムの試作  
~チャット機能を用いた学習指導における絵文字に注目した履歴の活用~  
○斐品正照 (東京国際大学), 松永公廣 (摂南大学), 石桁正士 (大阪電気通信大学)
- 15:35~15:55 25. 文科系学生を対象とした論理回路に関する意識調査と論理回路学習キット開発  
○三池克明 (日本工業大学), 斐品正照 (東京国際大学)
- 15:55~16:15 26. 子どもの発達段階をシームレスに捉える発達記録とそのシステム化  
○浅野雅哉 (同志社大学大学院工学研究科), 秋永美香 (同志社大学工学部),  
糠野亜紀 (常磐会短期大学幼児教育科), 新谷公朗 (常磐会短期大学幼児教育科),  
井上明 (甲南大学情報教育研究センター), 芳賀博英 (同志社大学大学院工学研究科),  
金田重郎 (同志社大学大学院工学研究科)
- 16:15~16:35 27. 携帯メールによる授業実施支援システムの開発と実践  
○柳ケンキ, 松永公廣 (摂南大学), 上向井照彦 (甲子園大学)  
森永理恵子 (ジュエシク レイ), 松永ちとせ (信州大学)
- 16:35~16:55 28. 他者評価を活用する言語表現学習支援システムの開発  
○西田純也 (摂南大学), 平澤洋一 (城西大学), 松永公廣 (摂南大学)



**【第4セッション (13:15~16:55)】**

- 13:15~13:35 29. 工学部における情報科教育法の授業実践  
○石川孝, 片山茂友 (日本工業大学)
- 13:35~13:55 30. 情報科教員のための公開型Web教材情報データベースの改良  
○白田翔, 今田洋, 石貝剛, 石川孝 (日本工業大学)
- 13:55~14:15 31. Wikiを利用した授業プラン活用支援システム  
○木内 勝博, 金谷勉, 石川孝 (日本工業大学)
- 14:15~14:35 32. スクールモデルに基づくeスクールの運用とその評価  
○松居辰則, 西村昭治, 浅田匡, 野嶋栄一郎 (早稲田大学)
- 14:35~14:55 33. Development of Multimedia Courseware for Teaching Practical Engineering Presentation Skills  
Pauline N. Kawamoto, Yasushi Fuwa, Hisayoshi Kunimune,  
○Elisabeth de Lacugo (Shinshu University), Etsuko Iwama (Epson Avasys)
- 14:55~15:15 34. USBを用いた身体体験型プログラミング教材の開発  
○伊藤敏 (岐阜聖徳学園大学), 井上祥史 (岩手大学)
- 15:15~15:35 35. mail 配信を中心とした学生支援 system の活用  
○石川高行 (大阪国際大学)
- 15:35~15:55 36. CMC技術を利用した個別学習指導における学習者の心理的な状態変化  
○斐品正照 (東京国際大学), 岡田ロベルト (宮城大学), 鈴木克明 (岩手県立大学)
- 15:55~16:15 37. テキストマイニングによるブログに対する意識調査の分析  
○高橋朋子 (園田学園女子大学), 高橋倫子 (関西学院大学)
- 16:15~16:35 38. IT技術学習におけるWebページの効果的な使い方  
○浅羽修丈 (神戸大学大学院総合人間科学研究科), 大月一弘 (神戸大学国際文化学部),  
柏木治美 (神戸大学国際コミュニケーションセンター),  
石桁正土 (大阪電気通信大学総合情報学部)
- 16:35~16:55 39. プレゼンテーション能力育成のための授業設計  
○稲浦綾, 木庭裕美 (大阪電気通信大学 先端マルチメディア合同研究所)
- 16:55~17:00 挨拶





## 2006 年度第1回研究会 発表募集！！

### 『e ラーニング環境のデザイン／一般』

日 時 : 2006 年 6 月 9 日 (金) 終日  
会 場 : 早稲田大学 国際会議場 (東京, 西早稲田)

本年度第1回研究会は、「e ラーニング環境のデザイン／一般」のテーマで実施いたします。本テーマでは、e ラーニングを企業や大学における複合的な教育研修メディアと捉える立場から、単なる Web による教材配信にとどまらず、企業や大学のマネジメントとの連携、学習コンテンツ設計、インストラクショナルデザイン、品質評価などの方法論、ツール、システム、実践環境に関する提案・構築など幅広いトピックスを扱ってきました。今回もこのような分野に関するご発表を募集いたします。その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

■ 発表申込締切 : 2006 年 4 月 14 日 (金)

■ 原稿提出締切 : 2006 年 5 月 12 日 (金)

※ 原稿はA4用紙で2枚以上の8枚以下の偶数枚でご準備いただきますが、パワーポイントを出力したもので構いません。

※ 発表原稿は「研究会資料」として製本し配布されます。

■ 発表申込方法

以下を電子メールでお送り下さい。形式は任意で結構です。

- (1) 発表タイトル
- (2) 著者名・所属 (登壇者に○)
- (3) 発表概要 (50 文字程度)
- (4) 連絡先住所・氏名・電話番号・電子メールアドレス

送付先 : 電子メールに添付して松居 (matsui-t@waseda.jp) までご提出下さい。

なお、ファイルサイズが2Mを超える場合にはご相談下さい。

■ お問い合わせ先

松居 辰則

早稲田大学 人間科学学術院 人間情報科学科

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

Tel & Fax : 04-2947-6924

E-mail : matsui-t@waseda.jp

## テーマ:インターネット新技術による学習環境

担当: 研究会委員会  
黒瀬能幸/越智洋司/渡辺成良

「インターネット新技術による学習環境」をメインテーマに論文を募集し、11件の発表申込みがありました。研究発表の内容は必ずしもメインテーマに沿った内容だけでなく、幅広く、実践報告が多く、参加者には分かりやすい内容だったと思います。参加者も、近畿大学理工学研究所の学生や教員が多数参加し、活発な質疑がなされ、有意義な研究会であったと思います。



開催日: 2005年11月26日 (土)  
会場: 東大阪市 近畿大学本部キャンパス

### 1. 反復再生可能型描画システム Polka のしおり機能の設計と実装

林敏浩 (香川大学), 中山 迅 (宮崎大学)

我々は、理科教育の中で実施される描画法を支援するための反復再生可能型描画システムPolkaを開発した。Polkaは自分が描いた絵を最初から再生して見ることができる反復再生機能を持つ図形描画システムである。現在、Polkaを利用して宮崎県の小中学校で描画法による理科教育の実践を進めている。これら教育実践より、特定の箇所に着目して描いたものの再生がしたいと要望があり、それを実現する機能として「しおり機能」をPolkaに組み込んだ。本稿ではPolkaの機能について説明し、さらに新しく組み込んだしおり機能の設計と実装について報告する。

### 2. シラバス科目間の関連性をを用いた学習経路検索支援

三好康夫, 大家隆弘, 上田哲史, 廣友雅徳,  
矢野米雄, 川上 博 (徳島大学)

徳島大学では教育・研究者情報データベース (EDB)を利用してシラバスを作成してきた。現在、EDBに登録されたXML形式のシラバス情報を元に科目間の関連性をグラフ表示するLearning Path Finderの開発を行っている。これにより履修時の学習経路検索が支援されシラバスの使い勝手が向上する。

### 3. 実世界インタラクション型 Edutainment システム: 小学校による2進数の学習を対象として

光原弘幸, 平川靖素, 緒方広明, 三好康夫,  
松浦健二, 金西計英, 森川富昭, 矢野米雄  
(徳島大学)

This paper describes two real-world interaction edutainment systems, which are implemented using RFID (radio Frequency Identification) technolo-

gies and aim at elementary school students' studying binary numbers through their interaction with human or real objects. One of the edutainment systems is "detective game" where the students try to solve quizzes displayed on PDA (personal Digital Assistance), get clues about a criminal as the answers of the quizzes, and search for the criminal acted by university student staff. Another is a popular card game "concentration" where RFID cards (tags) are used instead of playing cards. We practiced the edutainment systems in an educational event and found out that elementary school students' interest in binary numbers was cultivated through the practice.

### 4. ITを利用した英語の発音とヒヤリング教育の試み - r と l を例にして -

江藤由布 (近畿大学付属高等学校), 井口信和,  
横前拓磨, 内藤真知子 (近畿大学)

The "Flapped r" which is used in Japanese is quite different from the sounds of "r" or "l" in English. This makes it difficult for Japanese people to pronounce r and l and distinguish one from another, when they are pronounced. A teaching method of pronunciation and listening comprehension of these sounds is under development as a research project of Kinki University, which includes development of software programs to evaluate listening comprehension of the sounds and to display body movements inducing movements of a tongue and muscles which create the sounds property. Though the project is still in the preparatory stage, it has been proved that the techniques developed so far work effectively to im-

prove abilities of Japanese students on speaking and listening of the sounds r and l. The method can be applied to teaching other sounds in English and those in other languages.

## 5. 北陸地区遠隔授業システムを利用した遠隔講義の実践

長谷川忍, 但馬陽一, ニツ寺政友, 安藤敏也  
(北陸先端科学技術大学院大学)

北陸先端科学技術大学院大学では、北陸地区国立大学連合におけるインフラ整備事業の一環として、2005年3月に導入された双方向遠隔授業システムをベースとして構築した、同期型遠隔講義環境の試行を実施している。本稿は、大学院教育に適したリアルタイム性、信頼性、安定性を実現し、多様な講義スタイルに対応するための、遠隔講義環境の構成及びその運用実践について報告する。

## 6. 遠隔講義のための動画 QoS 管理手法

横前拓磨, 越智洋司, 白石善明, 井口信和, 向井苑生 (近畿大学)

高精度な映像通信を用いる遠隔講義に適した映像伝送方式を提案する。本方式では、まず、伝送する映像に対して、遠隔講義を実施する教室の状況に応じた優先順位を与える。次に、ネットワークの輻輳状況に応じて、優先順位にしたがい通信を制御することによって、利用者が要求する品質の映像伝送が可能とするものである。

## 7. Web ベースの剽窃により作成された学生レポートの検出手法の提案

宮川勝年, 高橋 勇, 小高知宏, 白井治彦, 黒岩丈介, 小倉久和 (福井大学)

近年 World Wide Web (以下、Web) を利用し、教師に課されたレポートの内容を Web ページの剽窃によって書く学習社が増加してきている。本稿ではそのような Web 上からの剽窃を検出するシステムについて、「Web検索」「類似度評価」「資格表示」に分けて検討・設計し、一部の機能について実装した。また、このシステムを用いて実際に学生から提出されたレポートを用いた評価実験を行った。その結果、多くの剽窃レポートについて剽窃元 Web ページの検出が可能であることが示された。

## 8. -----発表取り消し-----

美術デザイン教育におけるCGアプリケーション・ソフトウェア操作方法教習のための e ラーニングシステム構築について  
安間寛行 (山口芸術短期大学)

## 9. 化学系学生が不得意である科目の習熟度向上のためのe-learning活用

木村隆良 (近畿大学)

化学系学生の不得意とされている科目に

e-learning による復習システムを導入した。2001年からの 16 科目について4年間にわたって、受信状況、理解の程度を調査した。1467人の登録学生の73%が閲覧した経験があり、21:00 から 1:00 に約 50 %が受信していた。また、全体の 30 ~ 40 %は土曜日と日曜日に受信していた。到達度とログインの回数は、すべての講義において正の相関性を示し、本システムによる外部動機づけがおこなわれた結果と考えられる。講義を受講した翌年の5段階評価によるアンケートから平均は 3.8 で 63 %が4以上の評価であった。

## 10. バーチャル実習システム開発の取り組み

黒瀬能事, 高山智行, 小林規矩男, 徐 丙鉄, 長谷川誠, 田中一基 (近畿大学)

我々は、工学部における実習型授業をバーチャル空間で行うシステムを開発し、実習のe-learning化を目指している。このため、シミュレータにより作り出される仮想空間内で、何をどの程度リアルに体験させるかを検討し、適切な品質を持つバーチャル実習コンテンツを効率的に開発する。本稿では、バーチャル実習システムの基本構想を述べ、実習コンテンツの開発方針と、バーチャル実習システムの構成方法を示す。

## 11. Go-TutorのCognitive Toolについて

奥田富蔵, 及川義道 (東海大学)

認知的道具を『思考への関与あるいはその機序についての理論や仮説にもとづいて構成されたもの』という意味に解して、詰碁の学習のための認知的道具について考察した。すなわち、詰碁の問題解決およびその知識獲得、形成過程を概観し、その中で手の名前が重要な役割を果たしていることを指摘し、その手の名前を核とする言語的処理を行って、詰碁の学習を支援する認知的道具3点を提案した。



◆◇ 研究報告書のお求めは ◇◆

研究報告書購入ご希望の方は、株式会社メディ・イッシュまで、  
TEL (03-5805-1901), FAX (03-5805-1902) にお申し込みください。  
1部 1,300円 (送料共) です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読 (購読料は送料込み  
で年間4,000円) をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL (06-6990-3638),  
E メール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください (年間 6  
回)。

この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします。

(教育システム情報学会研究会委員会担当/伊東幸宏)



## JSiSE 先進eラーニングフォーラム '2006 - e-Learning Professionals: 新たな課題 -

e-Learning 特別委員会

- 日 時 : 平成18年3月30日 (木)  
12:50 - 18:00
- 場 所 : 上智大学 (東京・四谷)  
中央図書館8階 L-812室
- 主 催 : 教育システム情報学会 (JSiSE) e-Learning 特別委員会
- 参 加 費 : 500円 (資料印刷費として)

なお、フォーラム終了後、主婦会館プラザエフ (東京・四谷) にて懇親会を行います  
(参加費 4000円)。

プログラム等の詳細、参加申し込みは、以下の URL をご参照ください。

<http://www.jsise.org/elearning/060330.html>